

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-189	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	論国 050-901	論理国語 改訂版		

## 1. 編修の基本方針

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高めることができるよう配慮する。
- ・言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、他者や社会に対する関心を育むことができるよう配慮する。
- ・教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、現代社会における多様な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<b>【第I部】</b> <b>1 世界・言葉・私</b> 世界を広げる「批評」の言葉／われ歩き、考え、対話す／定義を書く／批評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、創造的に世界と関わることについて考えを深める教材として、「世界を広げる『批評』の言葉」「われ歩き、考え、対話す」を収録した。(第1・2号)</li> <li>・言葉の定義について考える「定義を書く」を位置づけた。(第1号)</li> </ul>	pp. 7-22
<b>2 論理と議論</b> 「日本語は論理的ではない」の曖昧さ／「批判」なき社会で起こる「炎上」／根拠と主張をつなぐ／議論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語と論理の関係や、建設的な議論について理解を深める教材として『「日本語は論理的ではない」の曖昧さ』『「批判」なき社会で起こる「炎上」』を収録した。(第1・3号)</li> <li>・根拠と主張の関係を理解し、的確に使いこなす「根拠と主張をつなぐ」を位置づけた。(第1号)</li> </ul>	pp. 23-42
<b>3 芸術と文化</b> ミロのヴィーナス／余白の美学／具体的・抽象的に書く／美意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対比や具体と抽象の関係をとらえるとともに、美や文化について考えを深める教材として「ミロのヴィーナス」「余白の美学」を収録した。(第1・5号)</li> <li>・具体と抽象の関係を理解し、自身の表現に取り入れる「具体的・抽象的に書く」を位置づけた。(第1号)</li> </ul>	pp.43-62
<b>4 共同体と個人</b> 生きることは頼ること／コミュニティから見た日本／日本人の意識構造／統計資料から分析したことを書く／共同体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の課題について理解を深めるとともに、文章と統計資料を関連づけながら的確に読み取る力を身につける教材として、「生きることは頼ること」「コミュニティから見た日本」を収録した。(第1・3号)</li> <li>・統計資料から読み取ったことをまとめる「統計資料から分析したことを書く」を位置づけた。(第1・3号)</li> </ul>	pp.63-88
<b>5 科学の可能性</b> 自己をモデル化する知能／科学は生きている／ラッセル＝アインシュタイン宣言／人工知能の可能性と畏／他者の主張に対する意見を書く／科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学と人間や社会、環境との関係について理解を深める教材として、「自己をモデル化する知能」「科学は生きている」「人工知能の可能性と畏」を収録した。(第1・3号)</li> <li>・他者の意見に対して、自分の立場を明確にして意見を述べる「他者の主張に対する意見を書く」を位置づけた。(第1・3号)</li> </ul>	pp. 89-120
<b>6 日本語の多様性</b> 敬語への自覚、他者への自覚／「方言コスプレ」現象／学術の専門語／情報を集めて分類する／言葉の変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の言葉や、その使い分けについて理解を深める教材として、「敬語への自覚、他者への自覚」「『方言コスプレ』現象」を収録した。(第1・5号)</li> <li>・テーマに沿って調査したことを分類してまとめる「情報を集めて分類する」を位置づけた。(第1号)</li> </ul>	pp. 121-142
<b>7 思考の枠組み</b> スキーマと記憶／地図の想像力／絵を見る技術／図版を分析して書く／パラダイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図と文章を関係づけて読む力を養うとともに、ものの見方や思考の枠組みについて理解を深める教材として、「スキーマと記憶」「地図の想像力」「絵を見る技術」を収録した。(第1・2号)</li> <li>・図版をもとに考えたことを書く「図版を分析して書く」を位置づけた。(第1・2号)</li> </ul>	pp. 143-172

<p><b>8 社会の原点</b> 社会的実在としての言語・法・貨幣／分かち合う社会／意見を交流・吟味する／社会の構造</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間社会の成り立ちについて理解を深める教材として、「社会的実在としての言語・法・貨幣」「分かち合う社会」を収録した。(第1・3号)</li> <li>・他者からの意見をもとに、自分の書いた文章を推敲する「意見を交流・吟味する」を位置づけた。(第1・3号)</li> </ul>	pp. 173-194
<p><b>9 グローバル化の先へ</b> 心に「海」を持って／グローバリゼーションと文化／現代日本の開化／調べたことをレポートにまとめる／世界と平和</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化の意義や課題について理解を深める教材として「心に『海』を持って」「グローバリゼーションと文化」を収録した。(第1・5号)</li> <li>・テーマに沿って調べたことを、全体の構成に注意しながらまとめて文章にする「調べたことをレポートにまとめる」を位置づけた。(第1・3号)</li> </ul>	pp. 195-216
<p><b>【第Ⅱ部】</b> <b>1 存在の意味</b> 「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ／人はなぜ贈与するのか／なぜ私は銅メダルを取れたのか／自己を分析して説明する／アイデンティティー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「贈与」という観点から、自己の存在について理解を深める教材として『「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ」「人はなぜ贈与するのか」を収録した。(第1・2・3号)</li> <li>・自分の過去の経験と、今後のことを結びつけて、他者にわかりやすく書くことを目的とした「自己を分析して説明する」を位置づけた。(第1・2・3号)</li> </ul>	pp. 217-238
<p><b>2 コミュニケーションのあり方</b> 記号的メディアと物理的メディア／対話の精神／対比して論じる／コミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションのあり方について理解を深める教材として、「記号的メディアと物理的メディア」「対話の精神」を収録した。(第1・3号)</li> <li>・対比を用いて意見を述べる「対比して論じる」を位置づけた。(第1・3号)</li> </ul>	pp. 239-254
<p><b>3 メディアと真実</b> ポスト真実時代のジャーナリズムの役割／メディアと表象／広告のメッセージ／仮説を立てて検証する／メディア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの役割や人々への影響について理解を深める教材として、「ポスト真実時代のジャーナリズムの役割」「メディアと表象」「広告のメッセージ」を収録した。(第1・3号)</li> <li>・グラフをもとに仮説を立て、その裏づけとなる情報を調べる「仮説を立てて検証する」を位置づけた。(第1号)</li> </ul>	pp. 255-282
<p><b>4 言語の探究</b> 人を指す言葉／猫は後悔するか／共感覚と比喩／アンケートをつくる／言語と認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語と認識や文化との関係について理解を深める教材として、「人を指す言葉」「猫は後悔するか」「共感覚と比喩」を位置づけた。(第1・5号)</li> <li>・目的に応じた的確な項目や構成を考える「アンケートをつくる」を位置づけた。(第1・2・3号)</li> </ul>	pp. 283-312
<p><b>5 不確実性のゆくえ</b> 世界が存在する偶然を／リスク社会としての現代／引用・要約をもとに主張を書く／自由と監視</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の不確実性やリスクについて理解を深める教材として、「世界が存在する偶然を」「リスク社会としての現代」を収録した。(第1・3号)</li> <li>・引用・要約の役割や違いに注目し、それらをもとに主張を書く「引用・要約をもとに主張を書く」を位置づけた。(第1号)</li> </ul>	pp. 313-330
<p><b>6 政治と社会</b> 多数決を疑う／政治を支える心構え／「である」ことと「する」こと／民法の条文／対立した意見をふまえて書く／政治</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治や社会との向き合い方について理解を深める教材として、「多数決を疑う」「政治を支える心構え」「『である』ことと『する』こと」を収録した。(第1・3号)</li> <li>・対立した意見について、論点を明確にしつつ、自分の考えや折衷案などを述べる「対立した意見をふまえて書く」を位置づけた。(第1・3号)</li> </ul>	pp. 331-364
<p><b>7 日常を問い直す</b> 日常に走る亀裂／言語と他者／テーマの具体化・焦点化／心と身体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な身体や言語について、あらためて問い直して理解を深める教材として、「日常に走る亀裂」「言語と他者」を収録した。(第1・2・3号)</li> <li>・あるテーマについて、具体的に掘り下げて、論じることを明確にする「テーマの具体化・焦点化」を位置づけた。(第1・2・3・4号)</li> </ul>	pp. 365-384
<p><b>8 環境へのまなざし</b> 生物多様性の恩恵／環境白書／地球システムの中の人間／問いを立ててレポートを書く／環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保護の意義や課題について理解を深める教材として、「生物多様性の恩恵」「地球システムの中の人間」を収録した。(第1・3・4号)</li> <li>・自分で問いを設定し、調査したことを報告する「問いを立ててレポートを書く」を位置づけた。(第1・2号)</li> </ul>	pp. 385-408
<p><b>9 歴史と時間</b> 無常ということ／日本文化の三つの時間／歴史そのままと歴史離れ／自由に考えを書く／歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史や時間のとらえ方について理解を深める教材として、「無常ということ」「日本文化の三つの時間」を収録した。(第1・5号)</li> <li>・教科書で学んだことのみならず、自分の考えを自由なスタイルで書く「自由に考えを書く」を位置づけた。(第1・2号)</li> </ul>	pp. 409-426

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・単元の学習の中で、考えを深めるための「問い」と、探究学習のヒントとなる「探究テーマ」を単元扉に提示した。
- ・単元のテーマや関連書籍について理解を深められるように、各単元末に「テーマと読書」を設置した。
- ・読書への関心を高められるよう、「読むこと」の著者紹介において、関連書籍を紹介する「著作案内」を設置した。
- ・実用的な文章について理解を深められるように、報告書、宣言、法例文、白書などを掲載した「実用の視点」を設置した。
- ・巻頭口絵に、「この教科書で身につく力」を掲載し、「書くこと」「読むこと」の観点ごとにねらいとする資質・能力を明示し、確かな学力を身につけることができるよう配慮した。
- ・幅広い知識や教養を身につけられるよう、評論文などで頻繁に取り上げられるテーマや語句について解説した「キーワード解説」を付録に設置した。また、「キーワード索引」「人名索引」もあわせて設置し、教科書内の語句や人名を検索できるようにした。
- ・「読むこと」「書くこと」の活動が円滑に行われるよう、参考となる基礎的な情報を「知の工具箱」として巻末にまとめて提示した。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表、担当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-189	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	論国 050-901	論理国語 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### ●基本方針

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高めることができるよう配慮する。
- ・言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、他者や社会に対する関心を育むことができるよう配慮する。
- ・学習指導要領に示された教育目標への対応に配慮しつつ、現代社会における多様な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をととして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

### ●構成

- ・第Ⅰ部・第Ⅱ部の2部構成とし、それぞれに、テーマの異なる単元を9単元ずつ配置した。また、単元の学習の中で、考えを深めるための「問い」と、探究学習のヒントとなる「探究テーマ」を単元扉に提示した。
- ・「読むこと」「書くこと」の力をバランスよく身につけられるように、すべての単元に、「読むこと」と「書くこと」の教材を位置づけた。また、コラム「テーマと読書」を設置し、単元のテーマや関連書籍について理解を深められるようにした。

### ●教材選択にあたっての配慮

- ・「読むこと」では、現代に生きる高校生が知っておきたい新鮮で多様なテーマを取り入れつつ、論理的・批判的な思考力を高めることができる教材を配置した。また、「実用の視点」として、社会生活に必要とされる実用的な文章を掲載した。
- ・「書くこと」では、自分の考えを他者に的確に伝えられるようになるために、「書く」上での多様な観点や形式を学ぶことができる教材を配置した。

### ●教材化の工夫

#### 1 「読むこと」の教材化

- ・教材冒頭に「目標」を掲げ、学習内容を明確化できるようにした。
- ・語句・漢字の学習に役立つ「語句・漢字」欄を見開きごとに配置。読み替えや同音異義語、対義語などの情報も充実させ、漢字・語彙の学習に資するようにした。
- ・評論などを読み解く際に大切な語句を「キーワード」として示した。資料編の「キーワード解説」とあわせて語彙力の育成に資するようにした。
- ・「学習のポイント」には、教材の内容を正確に読み取るための設問「内容把握」のほか、論理的に文章を考察したり、発展的に自分の考えを述べたりする「考察・発展」を設置した。また、論理的な文章を書いたり読んだりする上で注目したい語彙や表現についての設問「語彙・表現」を設置した。
- ・生涯を通じた読書生活の充実を配慮し、各教材に「著作案内」を配置し、読書への意欲を喚起するよう工夫した。

#### 2 「書くこと」の教材化

- ・教材冒頭に「目標」を掲げ、学習内容を明確化できるようにした。
- ・「課題」に取り組む際に参考となる情報をまとめた「課題へのアプローチ」を設置し、文章を書く上で押さえておきたい観点や方法を明示した。

### ●付録の充実

- ・付録として「キーワード解説」を設置し、重要語句についての理解を深められるようにした。また、「人名索引」「キーワード索引」も設置し、教科書内でどのような語句や人物が掲載されているか、一覧できるようにした。
- ・巻末には「知の工具箱」を設置し、さまざまな学習場面で活用できる基礎的な情報をまとめて提示した。



